

郷土撰津

いにしえ通信

平成十年十二月一日 **第八号**

発行
 摂津市三島一丁目一番一号
 摂津市教育委員会
 生涯学習部 生涯学習課

速報 発掘調査

○平成十年四月から十一月までに実施された発掘調査は次のとおりです。

○現在のところ、まとまった遺物の発見はありませんが、各地区の堆積の状況は確認されつつあります。これらの調査の成果の積み重ねが将来的に大きな発見につながるかもしれません。

調査件数	
調査総数	38件
遺跡内	1件
遺跡外	37件
試掘調査	14件
立会調査	24件

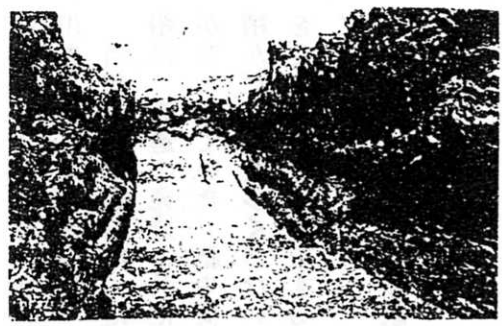
平成10年11月30日現在

調査場所	
千里丘	13件
千里丘東	5件
庄屋	6件
東正雀	3件
正雀本町	4件
正雀	4件
正鳥飼	1件
鳥飼下	1件
鶴野	1件

千里丘六丁目 試掘調査

平成十年八月四日に千里丘六丁目において試掘調査が実施されました。

調査の結果、六層におよぶ堆積が検出されました。これらの堆積より土坑・杭跡・落ち込み状遺構が見つかりました。時代を特定できるような遺物の発見はなかったのですが、周辺地域で古代に大規模な土木工事が行なわれていた可能性が想定されます。



↑ 千里丘6丁目・試掘風景

お知らせ

大阪府内で開催される展示・講演会・シンポジウムなどの情報をいち早く、お知らせします。

大陸文化へのまなざし

発掘速報展 ー大阪ー

とき 十二月二十日まで

ところ 大阪市立博物館

〇六一九四一ー四〇六四

期間中は講演会・調査成果報告会・展示解説なども開催されています。

同時開催 発掘された日本列島 新発見考古速報展

ドキドキ土器ひっこ

みんなの作品展

とき 十二月十八日まで

ところ 摂津市役所本館

〇六一三三三ー一一一

〇七二六一三三ー〇〇〇七

※平成十年七月に別府公民館で開催された体験学習講座による受講生の作品展示です。

淀川

淀川は長年の間、人と物と文化を運ぶ大動脈でした。また、農業用水など生産や暮らしに必要な恵みをもたらしました。一方、洪水という災害をもたらすなど、人々に関係の深い存在でした。

お話し鳥飼下

「子どものころ、淀川を泳いで渡りました。今よりもずっと川幅が広く、半分くらいは浅瀬や砂の島で、泳いだり歩いたりして渡ります。流れのきついところもあって、川の様子を知らない子は、ここで足を取られて死んだりするのです。」
「淀川の水を使って作り酒屋をしていた人が、近くにおられました。東北地方から働きにきていた大勢の人が

おじいさん・おばあさんに聞きました

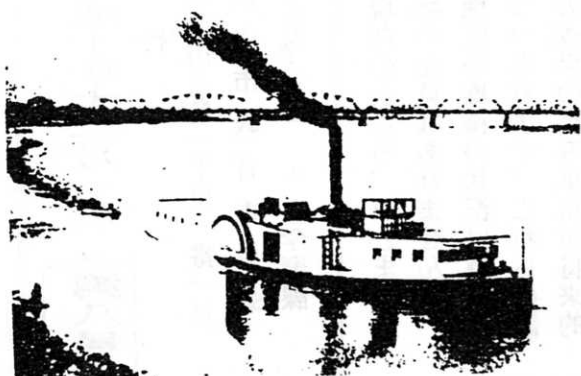
摂津市域 ちよつと昔のくらし

その 8 淀川・蒸気船・堤防工事

冬の寒い夜中に舟に乗って向こう岸に近いきれいな水を汲んできて、お酒に使うのです。桂川が流れこむ向こう岸近くの水が、こちら側の水よりきれいだったのです。」

蒸気船

明治の初年に、当時の世界



最新の外輪蒸気船が輸入され明治、大正、昭和にかけて淀川を上下していました。

当初は豪華客船だったこの船は、鉄道の発達と共に役目が変わっていき、肥や荷物を積んだ小舟を多くつないで河をさかのぼる仕事をするようになりました。

戦後しばらくまで運航していました。

お話し鳥飼上

「大きな蒸気船が通れるように、航路の川底をいつも掘り下げておく仕事をしていた蒸気トラと呼ばれていた人が、うちの村に住んでいました。」

お話し鳥飼中

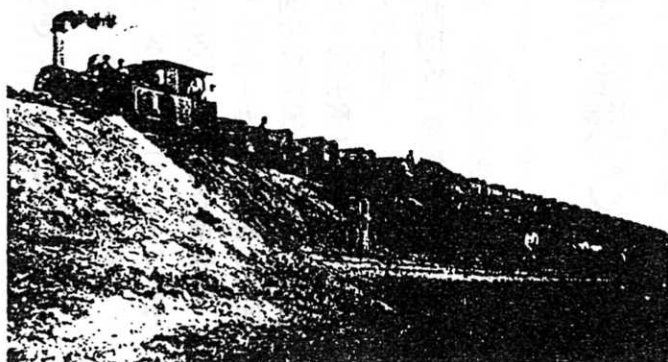
「蒸気船が浅瀬に乗り上げて動けなくなったりとき、舟に乗って見に行きました。風呂まで付いている立派さに驚きました。」

堤防工事

堤防は洪水を防ぐ大事な役目をしていました。特に明治

以降になってからは、洪水の度ごとに、大規模なかさ上げがくり返されました。

淀川堤防は、昔は主要な道路でもあり、洪水のときの避難所でもありました。



お話し鳥飼上

「堤防のかさ上げは、島の土を使いました。イキスカという機械で掘って、土汽車で運ぶのです。」

担当 (源)

郷土史コーナー

◎ 中世の味舌

悪党について

悪党というのは、鎌倉時代末期に、幕府や荘園領主など権力に反抗し、既存の社会秩序を破壊する徒党を指したのですが、その発生の理由は複雑であり、その形態も多様でした。すでに、朝廷による公家的秩序も衰え、幕府による武家的秩序もしだいにゆるみ、一方では、商品経済の進展、貨幣の流通につれ、荘園経済の性格が変化し、荘園村落の古い秩序はゆりうごかされました。

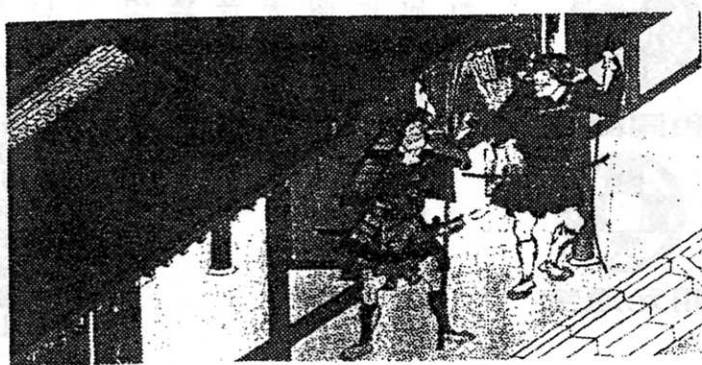
村落内部では、流通経済と結びついて、既存の秩序や権力に反抗する農民が成長しました。かれらが徒党を組んで既存の秩序や統制を暴力的にかき乱すとき、悪党と呼ばれました。

中には、体制からはみ出して、たんなる海賊・山賊となるものもあり、また年貢を押妨するなど荘園領主の支配に敵対し、政治権力に対抗するものもあらわれました。

幕府はもちろん悪党追捕にとめました。一向に実効はあがりませんでした。なかには、守護・地頭・御家人で悪党と結托するものや自ら悪党化するものがありました。そして、幕府の存立を内側から危うくしていきました。

悪党の興隆は鎌倉幕府による政治の矛盾の現われであり、幕府に対する不満の表現でした。ここに、社会の各層の不満を集中的に組織し、一気に倒幕を実現しようとしたのが、後醍醐天皇でした。そして、御醍醐天皇のもとに結集した武士団は、陸行に長けたもの、水行に熟したのも、大なり小なり、悪党的な性格をそなえていました。

楠木正成のひきいた軍団はその代表的なものでした。悪党の新奇な戦略・戦術・陣型の展開は旧来の伝統的な「戦闘」を変えていきました。又、悪党は庶民の生活にも脅威を与えていました。



→ 春日神社の社頭にたつ
甲冑異形の輩
(春日権現験記絵)

味舌に関わる悪党について

摂津国は経済的に先進地域であっただけに流通経済からんだ悪党の多いのが特色でした。文永二年(一二六五年)に原因はよくわからないが、垂水西牧長興寺(豊中市)で、摂津国の住人茂忠法師というものが、春日社から遣わされた神人(下級神官)に刃傷する事件が起りました。

茂忠法師はいずれかへ姿を消してしまいました。翌三年には朝廷から同人を逮捕すべき官旨も出しましたが、いっこうにかまりませんでした。茂忠法師に同意の輩が興福寺領味舌庄にいたので、かくまっているのではないかと、春日者の神人たちは思い報復のためにその者たちの家を焼き払うという強行手段をとりました。

※摂津市史、週刊朝日百科
「日本の歴史」より

担当 (茗荷)

考古雑話

第 8 回

わかりつつある縄文時代の生活

三内丸山遺跡の発掘と縄文時代の生活

キーワード③「多い」のつづき

(c) 土偶

縄文文化の謎のひとつに土偶が挙げられます。土偶とは人物、動物をかたどった土製品のことです。その形はバリエーションが多く特異な衣服を着たものや、昆虫のような巨大な目をもつものや、板状のものや、ハート型などが確認されています。土偶の多くは女性、とくに妊婦を形どったものだと言われています。その生命力にあふれた造形から豊饒のシンボルとして信仰の対象になっていたのかもしれない。

三内丸山遺跡からは、板状土偶を中心に大量に出土しました。総点数は七百点にのぼるといわれています。また、土偶はバラバラに壊された状

況でみつかるのが通常です。

三内丸山遺跡から発見された全長三十二cmの大型板状土偶も頭部は、盛土遺構から胴部は、住居跡からそれぞれみつかりました。九十メートル離れた位置から出土した二点はびったりと接合するそうです。意図的に破壊し別々の場所に埋めることに特別な意味があったのでしょうか。

三内丸山遺跡からは、壊された土偶以外にも完形品が多いう特徴も指摘されています。上偶の生産拠点だったのかもしれない。



国内最大級の板状土偶

不定期連載

撰津市域の遺跡⑧

前回は明和池遺跡を紹介しました。今回は淀川河床遺跡について説明します。

【所在】撰津市鳥飼上

【種類】散布地

【立地】河川敷

(大阪府文化財地名表より)

◎昭和四十九年の淀川改修工事の際して下流の鳥飼西地区の河床より多量の遺物が採集されました。



和同開珎

開元通宝



軒丸瓦

◎今回紹介した遺物は採集されたなかのごく一部です。その他、縄文・弥生・古墳時代の土器からくわんか茶碗まで各時代の資料が採集されました。

現在周辺地域でも調査を実施しておりますが、まだまだ充分ではありません。今後の周辺地域の調査の成果に期待がもたれます。

【く】 黒塚古墳

◎奈良県天理市柳本町の大和古墳群のなかに所在します。

◎平成十年一月に三角縁神獣鏡が多量に発見されたと報道され一



躍、全国に名を馳せました。最終的に確認された銅鏡は三十枚、うち三枚は角縁神獣鏡は三十枚です。

た。出土状況がわかる世紀の大発見でした。○撰津市で生まれた織田尚長は、柳本藩の藩祖でした。

担当 (伊部)